

平成25年度 第2回石狩市民図書館協議会の会議 議事録

平成26年2月19日（水）午後4時より

石狩市民図書館研修室1

出席者	石狩市民図書館協議会	会 長	樟山 行彦
		委 員	樋口 博
			平山久賀子
			上村友香理
			矢野 誠
			河村 芳行
			富澤 夕希
			三上 嗣子

		傍聴者	0名
	石狩市民図書館	教育長	鎌田 英暢
		館 長	百井 宏己
		副館長	丹羽 秀人
		副館長	板谷 英郁
		奉仕兼事業担当主査	岩城 千恵
		奉仕兼事業担当主事	吉岡 律子

<会議次第>

1. 会長挨拶
2. 教育長挨拶
3. 議事
 - (1) 平成25年度事業報告について
 - (2) 平成26年度予算及び事業について
 - (3) 石狩市民図書館雑誌スポンサー制度について
 - (4) 意見交換
4. その他

1. 会長挨拶

樟山会長：平成 25 年度第 2 回図書館協議会を開催いたします。私ごとですが、今日新年度の計画会議が学校でありました。校長から次年度の学校運営について、色々指示を受けてセクションごとに計画を立て、それを検討するという会議で、例年長引くものですから事務局の方には冒頭遅れるかもしれないということを伝えていました。図書館協議会のメンバーは 2 年間の任期ということでお引き受けしていただいておりますが、その 2 年間の最後の図書館協議会になります。これまで色々なご提案をいただいておりますが、最後となりますので 2 年間の思いも含め、この図書館がもっと市民に愛されるような話し合いになればいいと思っています。よろしく申し上げます。以上で挨拶とさせていただきます。

ここで、教育長からの挨拶ですが、所用で間に合わないということで、後ほどご挨拶いただきますのでご了承いただきますようお願いいたします。それでは議事に移ります。お手元の資料の議事に沿って進行させていただきます。平成 25 年度事業報告について事務局お願いします。

3. 議事 (1) 平成 25 年度事業報告について：(丹羽副館長、岩城主査より報告)

樟山会長：画像も用いての事業報告をしていただきましたが、ご質問等ありましたらお願いします。

私から一点お聞きします。根本的な話で学校図書館の図書標準が 90%を超えているということですが、双葉小学校は開校 4 年目で、若葉小学校と紅葉山小学校が統合しているのですが図書の財産を引き継いでいて、古い本を持ってきています。図書室のとなりに資料室がありましてそこに置いているのですが、それも当然カウントしています。それで蔵書率が 90%パーセントになっているという現状なのですが、その古い本をどうやって使っているかといいますと、学級文庫と言いまして各学級にケースに入れて 20 冊程度置いています。隙間の時間、あるいは朝学習の時間にそこから持ってきて読んだり、あるいはテストが早く終わったら黙って読んでいるというようなことをやっています。要するに子どもたちに古い本が回っているのです。今の本と古い本で何が違うかということ活字の大きさも違います。古い本は字が小さくて、今の本は字も絵も大きくて非常に読みやすくなって、改善されている。そういうことで古い本もカウントされてしまうので廃棄が出来ないのです。逆に言うと廃棄はあまりするなということだと思っておりますが、蔵書率から言うと蔵書率の低い学校に図書費の予算が行くので、当然双葉小学校はかなり 100%に近いので予算は減らされる。でも内実は古い本がたくさんあって、捨てたい本がたくさんあるのに捨てられないという現状で非常にそれが問題だというのが司書の話

で分かっています。ですから司書も配置していただいて、石狩が読書に力を入れているのは重々承知しているのですが、子どもたちに新しい本を新鮮なうちに与えるというのも非常に大事なことだと思います。古くてこれ以上は使えないという本が実際ありますので、ぜひ積極的に廃棄させていただいて、やはり生の数字でちゃんとカウントしてほしいと強く思っているところでもあります。予算絡みのことでつらいところもあるかと思いますが、現場の現状としては、多分双葉小学校だけではなく他の学校も苦勞しているのではないかと思います。そのあたりいかがでしょうか。

丹羽副館長：双葉小学校は、旧若葉小学校と紅葉山小学校の本を全部集め、その時かなりの廃棄をしました。おそらく3割か4割は廃棄していますが元々の本が古かったと言えらると思います。そして残った本を新たに登録しております。隣の部屋にある本が全部登録されているかは調べてみないと分からないのですが一部未登録もあるのではないかと思います。今回私どもが作っている学校図書館等整備方針では、廃棄をしましよとかなり全面的にうたっております。そのあたりが徹底されていないようで、ある面では図書標準100%よりも大切なことと私も思っております。特に学校司書を配置している学校では、どんな本を残した方が良いのかある程度検討がつきますので廃棄は進めていきたいと思ひます。また、生の数字を作っていくことの方がずっと大事だというのは図書館としての一致した見解ですので、今後進めていきたいと思ひます。

富澤委員：娘が南線小学校に通っているのですが、学級文庫と各階ホールのおひさま文庫に、新しい本や若干古い本もあります。古い本には古い本の良さがあつて、今は無いようなちょっと大きめの字だったり、ヘレンケラーの本一つにしても私が小さい頃に読んでいた昭和50何年くらいの時代のものが置いてあり、そういうのを娘が借りてきます。新しい本が近くのコーチャンフォーなどで置いていて、同じ伝記でも全然違つたりするので、そういう本を新鮮な気持ちで比べて読むという良さもあるのではないかと思っています。私は逆に今司書の方がたくさん小学校に配置されてすごく良い環境なので、例えば、双葉小学校もしくは南線小学校、緑苑台小学校などの本を交換するようなことは出来ないのでしょうか。本が好きな子はどんどん借りるわけですから、そういうふうにするのも一つの手なのではないかと感じたのですが、本は小学校によって違うというわけではなく同じなのではないでしょうか。

丹羽副館長：南線小学校のおひさま文庫や学級文庫は全く登録されていないので数字には入っておりません。そして、学校図書館の本だけが登録されている状態のため図書標準の数字から外れているはずで、たしかに昔の本が一律にだめというわけではなくて、特に双葉小学校の資料室のように閉架があると良いのは、どうしても学校の先生がこの本を見せたいという時に閉架から出してくるという場所にあることです。データが分か

って司書が資料を出すことが出来るというのも良いことですし、富澤委員のお子さんのように二つの本を比較するというのは読者の一つの楽しみですから、そういう醍醐味を小さい時から知っているというのは素晴らしいことだと思います。また、今後はそんなに長くないスパンで学校司書を学校ごとに異動させていこうと考えています。例えばA小学校からB小学校へ移るとB小学校の司書はA小学校の蔵書のことは頭に入っていますから、そういう意味では交換は可能です。今後、図書館で行う学校司書連絡会議の中でも、テーマに上げていきたいと思っております。配置換えをしても石狩市の財産に変わりはないです。学校側とも十分話し合いながら良い活動にしていきたいと思っております。

樟山会長：もう一点お聞きしたいことがあるのですが、ブックスタートについて、10カ月健診に本をお配りするという事業は非常に良いことだと思うのですが、それは要するに母親のためのプレゼント、母親が読み聞かせをしてあげるためのプレゼントということになりますよね。それで、子ども自身が本に興味・関心を持ち始める小学校の頃に非常に大きな影響があるのではないかと思います。第2のブックスタートではないですが、例えば新1年生になる時に市から本をプレゼントして、これを入学のお祝いだよというような、子どもを対象としたブックスタートが出来ないかと最近すごく思っています。そうすると、それをきっかけとして次は違う本を読みたいとか、本って面白いとか、1年生の時からきっかけがあると良いのではないのでしょうか。学校現場でも一生懸命読書活動には力を入れているのですが、そのあたりぜひ応援していただけたらもっと良い効果があるのではないかと思います。あるいは、図書館にはこういう本がたくさんあるよというパンフレットをいれた形でやっていただくといいのかなと。予算が絡む事なので急には難しいかもしれないですけど、いかがでしょうか。

丹羽副館長：たしかに会長がおっしゃるように予算が絡む問題であり、すぐに出来るお話ではありませんが、小学校1年生というのは大きなターニングポイントですので、ここに何らかのアクションは必要だと思います。ブックリストはなんらかの形で作成したいと思っておりますので、先生方にもご協力いただきたいと思います。ブックスタートですけれども、ブックスタートの考え方は色々あって、いつ頃あげたらいいのか議論になっているのです。石狩市では10カ月の健診時に配布していますが、全ての自治体が10カ月に配布しているというわけではありません。色々なパターンがあります。ただ、10カ月や1年の赤ちゃんに配付する場合、会長もおっしゃったようにお母さんが中心であり、まだ本は買われていないという状態が多いですが、最近は大分10カ月でもそれなりに本を持っているというお母さんがおり、色々持っていますという声が返ってきて、良いことだと思います。これはブックスタートを始めた頃にはなかったことなので、本当に良い現象だと思います。そういう意味で、大きくなるとそれぞれの家庭で本を買っていきますので本を選ぶのはけっこう難しいことになってきますし、成長の差というものも

どんどん大きくなっていきます。今後小学校1年生にどのようなサービスをしたら良いのか、ぜひご相談に乗ってほしいと思います。

樟山会長：子どもたちを見ていると、9歳の壁というのがあります。9歳の頃はちょうど小学校3年生くらいで、1、2年生は具体物であるおはじきなどを使って計算をしますが、3年生になると割り算などが出てきます。つまり具体物を使わず抽象的な概念で頭の中で組み立てるということになるのですが、そこで非常に差が出ます。具体物をたくさん使って体験が多い子はその壁をクリアしていくのですが、足りない子というのはやはり理解が遅くなってしまいます。さらに遡って行くとたくさん読書をしているという子は、抽象的な話を自分が主人公になった気になれるのでその辺の壁もクリアしやすいといわれているのですが、そういう意味においてもやはり読書は学力や生活面において非常に有効だと思いますので、ぜひ行政からの支援をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。そのほか何かありませんか。

河村委員：基本的な確認なのですが、学校図書標準というのはどういうものですか。

丹羽副館長：文部科学省でクラス数に応じて計算式があり、その学校では何冊という指標を示しています。今、具体的な数字は持ち合わせていないのですが、何クラスの学校だと何冊というふうに決まっていますので、かけ合わせていくと、この学校には何冊必要というのが出てきます。

河村委員：そうしますと、先ほど会長がおっしゃっていたように蔵書冊数は満たしているけれども、受入冊数や新鮮度の方でも満たして行かないといけないということですね。蔵書冊数が多くなりますと受入冊数が多くても新鮮度が下がってしまいますよね。やはり相関で見えていくと蔵書冊数というのは非常に議論に出てくるのですが、会長がおっしゃるように新しい本を100冊買ってもらった方が蔵書何冊というより利用の効果があるということですね。

丹羽副館長：河村委員がおっしゃるとおりです。実際に学校図書標準は決まっており、全国を見ていきますと、これを満たすために廃棄をしない学校があるということは私どもも知っています。石狩市においては、何が何でも捨ててしまうというわけではなく使い勝手が良くないという本はどんどん廃棄していきましょうということを今まで学校図書館担当者会議で話して進めてはいるのですが1冊1冊のことですので、なかなか一気に進められないというのが実情です。ただ先ほど画面でお見せした通り、なかなか作業が進まない学校には職員がお手伝いに行くこともありますし、今後も努力していきたいと思っています。

河村委員：提案というか口をはさませていただいたのは、学校図書標準というのが決められるというのはもちろん指標として 100%に向けて購入を強化するというのは重点目標として良いと思うのですが、プラスアルファとして学校図書標準を 100%に向けていくために、年間 50 冊でも各学校に目標として購入するだとか、先ほどお話がありました通りぐるりと学校間で本を交換するだとか、新しいものの移動というのは面白いのかなと思いました。

樟山会長：先ほどの付け加えになりますが、なぜ廃棄を進めてほしいかという、学校司書がどうい本が学校にあるのか把握してほしいと思っています。先ほどのお話の中で出ていたように資料的に価値のある本は捨てることはない、それはやはり司書が見てこれは残した方が良いとか判断をしなくてはならない。そういうことも含め廃棄をしないと、そちらはかまわれない状態で新しいものにばかり目がいきます。そういう意味でもやはり自分の学校のデータをしっかり把握する上で、何を残したらいいのか、何を捨てるべきなのかということも司書にやってほしいというのが私の願いです。積極的に関わりを持ってほしいという意味で廃棄を進めてほしいということでお話しました。なんでも一律に捨てれば良いという考えはありません。

百井館長：相当蔵書の関係ではご意見をいただき、学校と学校とのやり取りというアイデアをいただきましたので工夫していきたいと思いますが、さっき会長もおっしゃったように、はっきり言いますと蔵書数を満たすために捨てるなど無言のプレッシャーをかけつつ数を満たそうとしていたのが現実です。それではいけないということで、副館長が申し上げた通り図書館の整備方針というのを立てて、あそこまではっきり書いてあるところは全国でもないのではないかと思います。廃棄を進め、ある意味数が減ってもいいから良質な環境を作っていこうということで打ち出しています。残念ながらまだ計画の途中ですから、まだこれからということで、考え方としては数だけではなく中身も充実していこうという方向で方針を出しています。せめて学校司書を配置しているところからしっかり蔵書を把握して適切な配置と廃棄等をやっていきたくて改めて思いました。ありがとうございました。

矢野委員：今お話を聞いていて前にも質問をしたかもしれないのですが、石狩市民図書館と学校図書館でそれぞれ蔵書をもっていますが、それは全部OPACで分かるようになっていのでしょうか。

丹羽副館長：現状では学校司書を配置した学校では石狩市民図書館と同じシステムを置いているので蔵書を見ることはできますが、一般の利用者の方には学校の部分は公開して

いません。なぜなら学校図書館の本を自由に借りることが出来ないためです。われわれ職員はそれぞれの学校図書館の蔵書は見ることは出来ますし、それを見ながら融通し合うということをしています。

矢野委員：そうすると石狩市内でどの本は重複しているとかどの本はどこにしかないというの全部わかるのですか。

丹羽副館長：現状では学校司書を配置している4校だけです。それ以外の学校は、旧石狩市内では電算化していますがその学校内でしか分かりませんし、それぞれの学校で厚田・浜益地区でいえば分館と統合した厚田小学校以外は電算化されていないので、十分な把握ができていないというのが現状です。

矢野委員：先ほど廃棄の話がありましたけれども、重複本は廃棄しますが内容がどうかという判断はなかなか出来ませんよね。先生ごとで廃棄の基準が違います。ですから必ず調整をした上で、あるいはうちの学校にはあるけれど他のところにもある、仮に廃棄してしまっても利用したいということになれば他のところから調達することが出来るというような調整ができれば廃棄しているのですよね。そういう意味では石狩市内の学校でも司書さんがいない学校も含めて早急にデータベース化をして所蔵情報を全部一元的に把握できるようにする。その上でこういうことも考える必要があるのではないかと思います。

樟山会長：では次に平成26年度の予算と事業、また、合わせて雑誌スポンサー制度についてご説明いただいて、その後、ご質問を頂戴したいと思いますので事務局の方よろしく願いいたします。

(2) 平成26年度予算及び事業について（丹羽副館長より報告）

(3) 石狩市民図書館雑誌スポンサー制度について（板谷副館長より報告）

樟山会長：それでは意見交換ということで進めて参りたいと思います。まずは予算及び事業についてご質問等ありませんか。

矢野委員：予算の金額のことで確認をお願いしたいのですが、学校図書館等充実事業費について、司書の配置が225万7千円、学校図書館図書費が500万円ということで、スタイルが違うため前年度とは比べられないのですが、2013年はこの学校図書館等充実事業費が3042万5千円あり、その中の図書費というのが1982万円あるという予算になっていたと思います。この2つの関係というのは、一見するとすごく減っているように見え

るため、もう少しそのところをご説明いただきたい。

丹羽副館長：学校図書館充実事業費ですが、昨年度の予算には全て入ってしまっていて、これ以外にも現状配置しています4人の学校司書の人件費等も入っております。今年度は500万円減っていますので、3000万円だったのが今年は約2430万円の予算計上を行っています。それで500万円くらい減っているということです。今年度の要求額は2753万円です。ですから、全体で200万円増えており、500万円減って、200万円が花川小の増員分増えているということで、全体では250万円くらいの減ということです。

矢野委員：わかりました。

樟山会長：その他ありませんか。

樋口委員：今年度の反省の中で子どもの読書活動体制整備の項目の中で、子どもの集まる場所への支援・連携というのが新規としてあったのですが、未実施になっており来年度の計画の中では抜けてしまっているのは何か理由があるのでしょうか。

丹羽副館長：これは図書コーナーへの充実を支援するという事で図書館の隣のあいぼーととの連携について模索をしたものです。図書コーナーの支援ということを考えていましたけれども、こども未来館の図書コーナーの運営の在り方は私どもの支援が難しいところがあったものですから、また違った方法を考えていかなければならないので来年度の計画からは削除しております。イメージとしてはあいぼーととの連携です。

樋口委員：わかりました。

樟山会長：他に何かありますか。ジャパンナレッジについて、予算がついているということなのですが、これは本館だけですか。

丹羽副館長：これはIDをもらって、そのIDで検索することが出来、どこかが使うと本館が使えなくなります。そういう意味では本館以外でも使うことは出来ます。実際に職員の中にはジャパンナレッジを使っていた図書館に勤務していた者がおり、非常に便利に使っていたと聞いていますので、ぜひ活用していきたいと思っております。今回導入にあたって、今まで道新データベースと日経テレコンを契約していましたが、日経テレコンの方は契約を解除して、料金的にはこちらの方が高いのですが、ジャパンナレッジを導入することにしました。

樟山会長：要するに学校で使えるかということなのですが。

丹羽副館長：可能です。ただ利用する時は他が使えなくなるため、本館に連絡していただく必要があります。そのあたり学校司書とも十分連絡を取り合っていきたいと思います。非常に便利だと思われるのは日本古典文学大系、このあたりが検索するには便利だと思います。

樟山会長：調べる学習コンクールの時にアクセス出来れば非常に情報が入りやすくなるのですが、そのあたりは多分学校サイドに次年度これが入るということは全然分かっていないのですが。

丹羽副館長：まだ館内でも予算が確定したのがついこの間ですからまだ職員にも徹底しておりません。

樟山会長：使用の注意点だとかその辺をきちんと周知していただければと思います。非常に有効なものですから利用率が上がるといいますのでよろしく願いいたします。その他ございますか。雑誌スポンサー制度についてですが、1点だけ心配していることがあります。趣旨はすごく良いのですが雑誌スポンサーの中には善良でないスポンサーも出ているので1から5まで該当しないものは対象としないとは書いてありますが、それをすり抜けるようなスポンサーも世の中にはいるので十分気をつけていただけたらと思います。何か他にありませんか。

富澤委員：雑誌スポンサーについてこれから募集ということですが、これは石狩市内の企業に限られるものなのでしょうか。

板谷副館長：そういう縛りは設けておりません。

樟山会長：石狩管内では初ですが、道内では滝川がやっていますがうまくいっているのでしょうか。

板谷副館長：滝川の例ですが、道内では滝川がやっております参考にさせていただいたのですが、滝川は全タイトルが120数誌あり、そのうち半分くらいが雑誌スポンサーの支援でやっているなので順調に進んでいると聞いています。

河村委員：道内では帯広もやっていましたよね。帯広はスポンサーになると、書架にスポンサー広告を載せていますが、こちらでは雑誌のカバーにスポンサー広告を載せるとい

うことで、広告場所を貸すパターンには色々な方法があるのだなと思いました。図書館が近年予算の少ない中で、お金を生んだり、場所を貸すというのは良いことだなと思って読ませていただきました。一つ気になったのが、代金をスポンサーさんが書店などに払い、そして雑誌が届くというのが結構手間になるのではないのかなど。逆に雑誌を図書館が何誌も取っているのだから一緒に購入した方が業者さんの手間がかからないのかなと思いました。

板谷副館長：今後やりながら検討していきたいと思います。

百井館長：今回出だしは現金を扱いたくないなというのがありました。ですから今後やる中で、お金でいただくというのも考えていく必要があるかもしれません。

樟山会長：それでは予算、事業、スポンサー制度について、冒頭申しました通り2年間の中で最後の任期ですが、枠を超えて図書館に対してこういうところはどうだったのかと聞きたい方もいらっしゃったかもしれないので委員さんの中で何かご質問等あればあげていただきたいと思います。何かありませんか。

冨澤委員：小学生と中学生の2人の子どもいるのですが、子どもが本に親しむための機会の提供に努めるということで、ここ何年か司書の方が小学校に配置されたり、色々な方法で司書の方が子どもに分かりやすい本の紹介などをしてくださって、本離れが進んでいる世の中で子どもが本に親しめるように協力してくださって嬉しいです。読解力のない子が多い中、読書活動は学力向上につながると思うのでこれからもこういった活動を進めていってほしいと思います。ありがとうございました。

樟山会長：その他何かありますか。それではここで、教育長から挨拶をお願いします。

鎌田教育長：本日の協議会は今年度最後で、若干まだ任期は残っていると思うのですが、改めまして2年間色々ご尽力いただきまして感謝申し上げます。ご承知のように本図書館はこれまで誰もが気軽に立ち寄れる、そしてみなさんから愛される、親しまれる図書館として運営させていただいているところでございます。今年度につきましては、ご承知のように昨年名取市、輪島市、それと石狩市3つの都市を友好図書館として協定を結んだところでして、それぞれの地域の資料を互いに展示し合うということで交流を進めているところであります。また蔵書関係もそれぞれ予算をつけながら早い整備を進めているところであります。まもなく新年度が始まります。今月末には定例市議会が始まりまして、新しい予算が審議を受けるところでございます。予算があることに越したことはないのですが、予算に関わらず私たち市民図書館としては職員一丸となってこれまで

の財産をしっかり継承しながら、また親しまれる図書館として運営して参りたいと思います。委員のみなさまにつきましては任期が終わりますが、また色々な立場の中でご支援をいただければと思っていますのでよろしくお願いしたいと思います。長い間ありがとうございました。私からの挨拶とさせていただきます。

樟山会長：それでは教育長よりご挨拶いただきましたけれども、2年間の図書館協議会の任務を終わりたいと思います。大変ふつつかな司会で色々貴重なご意見を言いづらかったと思いますが、ぜひ委員のみなさま方が石狩の図書館のサポーターでありますので今後も支援をしていただきたいと心から祈っております。よろしくお願いいたします。大変2年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

平成26年 3月18日

会議録署名委員

会長 樟 山 行 彦